

体育科 第5学年

Time is score ～ボール運動

(ベースボール型)～ 学習指導者 やまもと けんた 山本 健太

ティーボールを簡易化したゲームにおいて、攻撃側の走者がホームに到達するのと、守備側が捕球して送球するのと、どちらが早いかを競っていきました。2度のリーグ戦に挑戦する中で、攻撃や守備の技能が、ある程度高まってきた子供たちは、本時の最終戦でさらに得点を増やすために、打順に着目しました。

「塁間タイム」「得意技」「調子」などを手がかりにしながら、自分が何番目に打つことでチームに貢献することができるか考え、オーダー会議で打順を話し合っていました。全員が納得できるように協調性を発揮しながら、自己やチームの特徴に応じた打順を決定していきました。試合後に行ったマイヒーローインタビューでは、肯定的な相互評価を行う中で、勝敗といった結果だけではなく、取組の姿勢や過程を認め合う姿が見られました。



考察

○ミスをしたり、負けたりした時にも、仲間同士で肯定的な言葉をかけ合うヒーローインタビューを行うことで、前を向いて次の目標を設定し意欲を高める姿が見られた。

●打順について話し合うために必要なデータをさらに精選して、子供たち全員が必要なデータを用いることができるようにすることで、チームの得点を増やすための対話が、さらに活性化したのではないかと考えられる。